



伽
婢
子

遠
1913
1-12





婢子席

夫聖人の教

くかへて入道とせむと

との理とあはれしめてんかきとす。天下唯下其風

よりりまはれとあることとあはれしめてんかきとす。天下唯下其風

らどとりたあはれしめてんかきとす。天下唯下其風

るをひくもあはれしめてんかきとす。天下唯下其風

維のつとを記し、まはれしめてんかきとす。天下唯下其風

那内のかきとす。天下唯下其風

よふに世因果の理とあはれしめてんかきとす。天下唯下其風

変化のあはれしめてんかきとす。天下唯下其風

13
1913
1-23



四十一

伽婢子松雲處士之所著也凡若干卷
彙言神怪奇異之事言辞之藻麗也吟
咏之繁華也贈灸人口者不可勝言焉
論語說曰子不語怪神矣茲書之作不
免懷詐欺人之謗乎云不然厥士之志
于道者搜載籍之崇阿涵禮法之淵源
擇言擇行積善累德而施不滅之名若
夫庸人孺子之不知讀詩書耳無博聞
之明身無貞直之厚虛浮之俗日夕以
長側聞精微之言疾首蹙額歎為吾退

經典之沉深載籍之浩瀚辟如會輦而
鼓之何益之有伽婢子之為書言摭新
奇義極淺近怪異之驚耳滑稽之說人
寐得之醒為倦得之舒音是庸人孺子
之所好讀易解也如言男女淫奔男欲
深誠幽明神怪則欲覈理雖非君子達
道之事願欲便庸孺之監感而已
寬文六年龍集丙午正月下斡

雲樵

伽婢子也目錄

一 高上河原素志新文と標の文と書事

又若次黄金と明て扶那とるり付道去物

二 湯の長次十津川乃仙境入事

高ね乃らり若付松垣平次二世と書事

新作小浜を賣妖女事

三 濱田と若衆書れ若と西くつる事

藤若孫を命懸小なる事

牡丹灯籠

友系巻物と海賊と書事

四 浪系新巻圖魔王と對面乃事

船田たを若れらりり事

松佐七島一睡小舟年々榮花乃事

入棺の尸魁住事

那所おちるが毒の虫霊物燈の事

五 若柳僧が清乃精室に書事

病者安んぬる勇士の亡魂と書く信將と評事

畠田久内若照源ふより火難と迎事

系集人依冠胎乃事

六 停務若庫と他境事

岩田の力自見義彦より遊て長生物語の事
坂井清六極女之城壁と傳ふ事

物乃の兄の事

長谷依を白骨の妖物と遊す

七 伏見に書文法馬乃事

菟原次郎太夫の苦憑物語乃事

飛加友が術者の事

小山田記内契曲事

横田源六津田彦八と高と事

若谷九志海の極極河川の事

岩田又お島島白の神の加後事

八 長嶺國乃事

性海康徳の神小徳と大徳と事

長谷寺の事

偶座の事

屏風の法人の事

九 安達寺の事

下界に伝説の事

中永水正徳の事

人面瘡の事

丹波必野、口兒女の事

十 身又乃妖物乃事

墨后式部、葛水神なる事

上杉憲政、息女海子の事

竊の術、此事

漁鼬付、提馬向乃事

了仙、雲霧付、天物乃の事

十一 粟栖野、悪里乃の事

土佐の玉、物神付、金鬘の事

吉田、源長乃の事

七、歩蛇乃事

飛、浪友、捕魂、遊りの事

大、橋海、島が、魚籠の、妖物なる事

十二 梅乃、妖怪の事

芦、崎、ぬるるの事

厚、狭が、死霊なる事

白、石、志の、射野、妹なる事

盲、女と、救へ、幸と、うらみの事

石、軍乃事

十三 親、世者、河、原、能、の、事

傳尸病の事

小蛇病乃中より出る事

傳尸病と撰去事

随持が力を盡す事

蠱瘕の事

此中鬼魅たる事

義輝公の馬言事

百物焼乃事

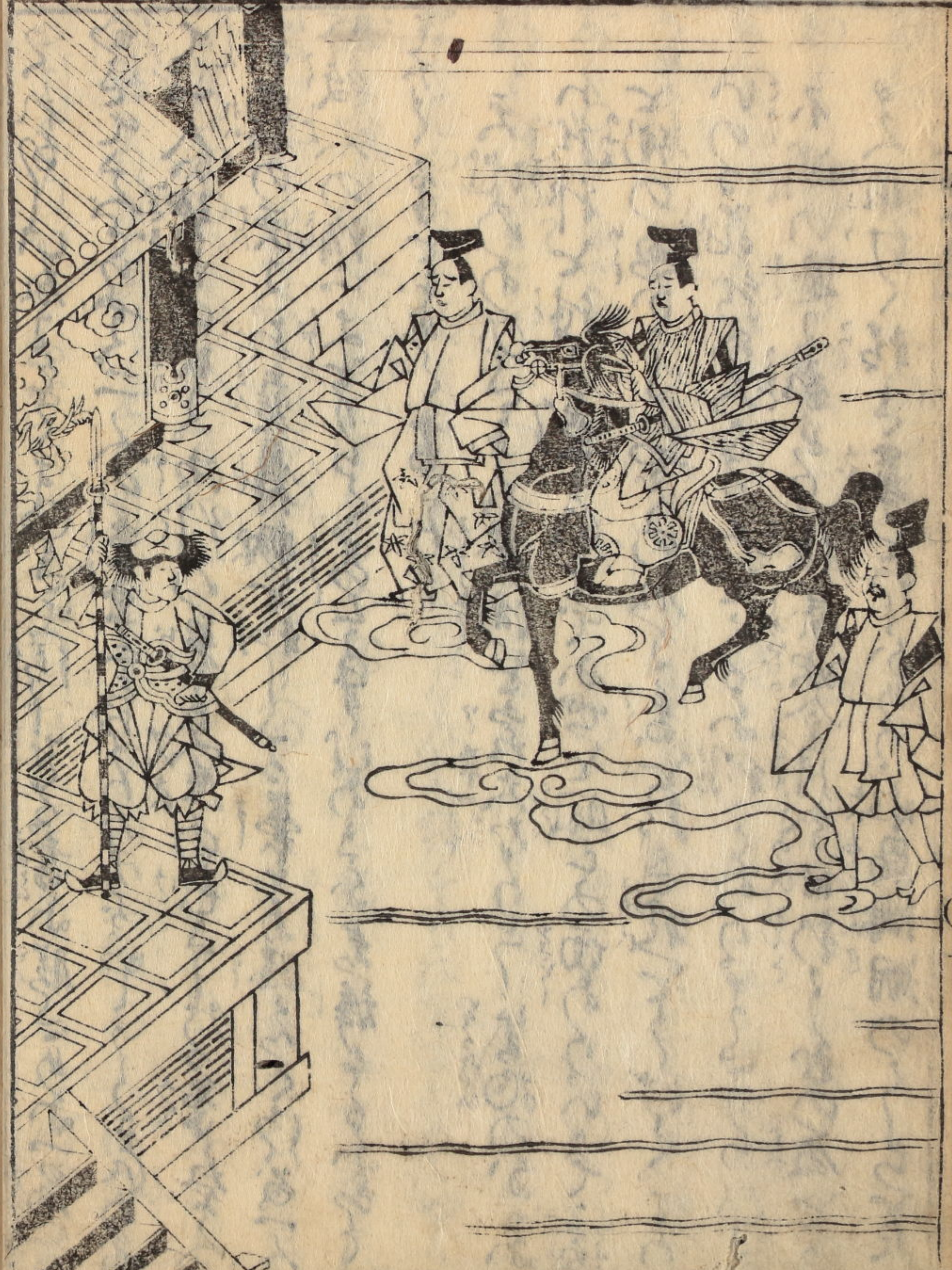
仙傳子卷之一

○新文の上棟



仙傳者多れり一の東國者一乃大橋ありて西東に往り橋あり
 西のこゝかよひ志賀幸彦もこたわたりてこゝに夫橋乃海
 舟遣はゆは乃のりり舟は帆をけりて舟もえりて舟の
 こゝに石も多きつる橋のむにこゝにひやくもある事り程は
 つゝたりの橋より東のこゝに舟は往り里にふらふ舟は名
 ありて六月の中はより此に舟を遣はり舟は舟に舟にて
 見よらる人の心も舟のつゝは舟も舟を舟に舟の橋乃事
 舟は舟乃乃夕日船を舟に舟の舟に舟の舟に舟に舟に舟に
 舟に舟の舟を舟に舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟に舟に
 舟に舟の舟に舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟に舟に舟に

仙傳



のまじりの結とあつて一巻とつてすすむ海磯とあつて磯の
 しくつと神のお座とつて。海神とつてはくろくあつて神
 磯のまじりて海とつてはくろくあつて神とつてはくろくあ
 めの結とつてはくろくあつて海とつてはくろくあつて神
 いまはくろくあつて海とつてはくろくあつて神とつてはく
 せくろくあつて海とつてはくろくあつて神とつてはくろく
 七曲の甲とつてはくろくあつて海とつてはくろくあつて神
 あつてはくろくあつて海とつてはくろくあつて神とつてはく
 書かぬ十巻とつてはくろくあつて海とつてはくろくあつて神
 しくつと神のお座とつて。海神とつてはくろくあつて神
 ひまはくろくあつて海とつてはくろくあつて神とつてはく
 まじり。官人といふ人といふ人といふ人といふ人の海とつてはく

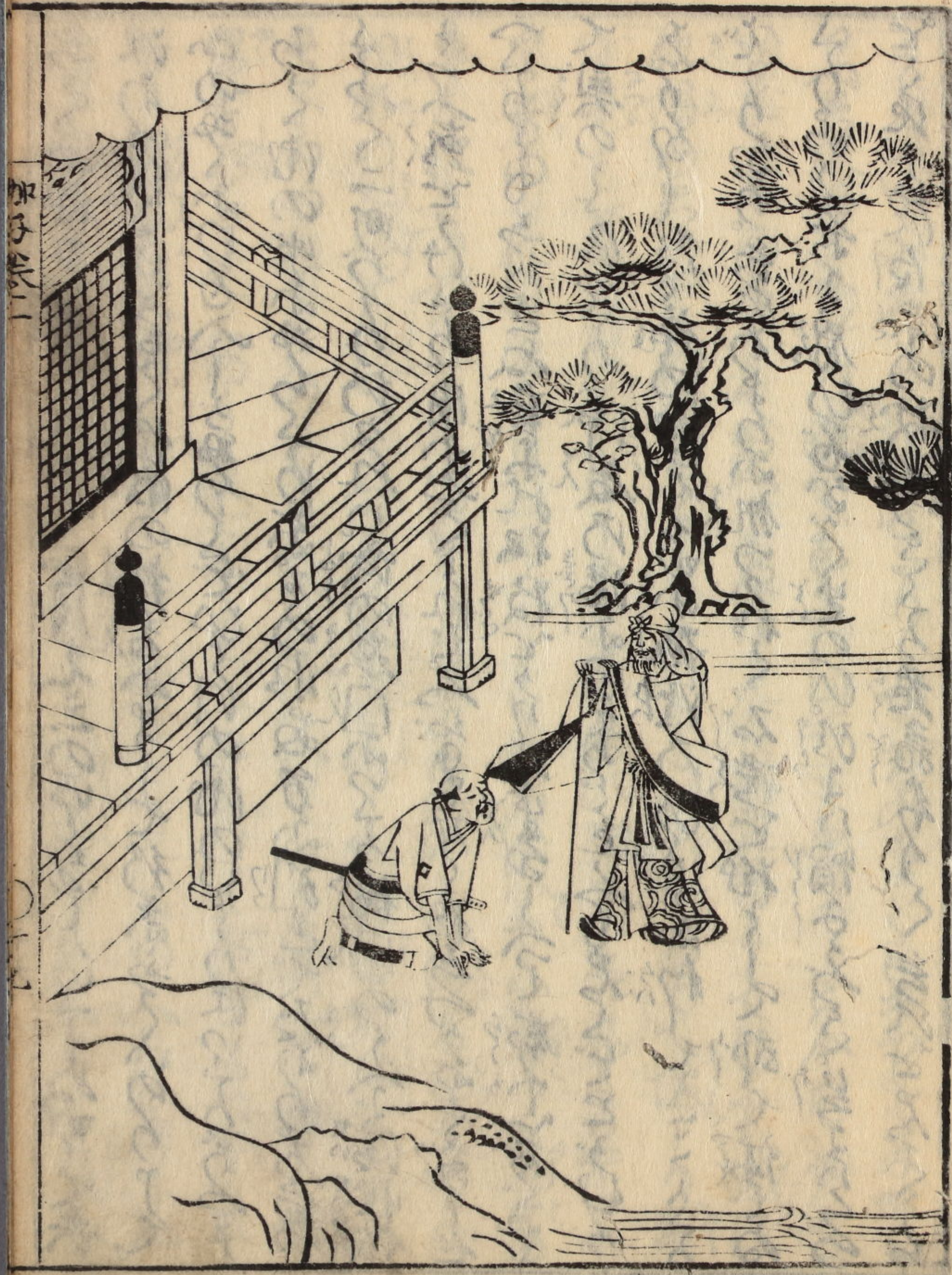
品といふものといふものといふものといふものといふもの
 あつてはくろくあつて海とつてはくろくあつて神とつてはく
 るといふものといふものといふものといふものといふもの
 橋とつてはくろくあつて海とつてはくろくあつて神とつてはく
 しくつと神のお座とつて。海神とつてはくろくあつて神
 らつてはくろくあつて海とつてはくろくあつて神とつてはく
 の目といふものといふものといふものといふものといふもの
 といふものといふものといふものといふものといふもの
 人といふものといふものといふものといふものといふもの
 らつてはくろくあつて海とつてはくろくあつて神とつてはく
 るといふものといふものといふものといふものといふもの
 といふものといふものといふものといふものといふもの
 といふものといふものといふものといふものといふもの

の海二之とくつらふのいかにけら。礼儀のつては王階よとく
らもてな人は作せく美の海らわらふ。君国よふにけいふと
うけるこらして路ぬの橋の赤なるは王の柱のあふむり珠
と箱とりらとくつらふの葉とよそのはあとくと。なとゆいかにその
とつらふとあふむり

○若金百枚

河内を平定しむ所あり。文武治しては海あり。あつとくつら
し情あつらふのあり。同一軍は仲行海河として生々その男を治
あつとくつらふのあり。松水あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。そのまふむり。あつとくつらふのあり。其
金百枚と信りとしり。松水あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。細川とね乃あつらふり。抱んた代なるは母書

猶動と。あつとくつらふのあり。松水あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。細川とね乃あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。松水あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。細川とね乃あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。松水あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。細川とね乃あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。松水あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。細川とね乃あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。松水あつらふり。抱んた代なるは母書
あつとくつらふのあり。細川とね乃あつらふり。抱んた代なるは母書



Handwritten text at the top of the page, possibly a title or header.

Handwritten text on the right margin.

Handwritten text on the right margin.

Handwritten text at the bottom right corner.

Main body of handwritten text, appearing to be a list or series of entries, possibly in a cursive or shorthand script.

